



当院の臨床工学技士は・・・

ME 機器管理業務 手術室業務 中央材料室業務 内視鏡業務 高気圧酸素業務
血液浄化業務 を行っています。

その中の、血液浄化(透析)業務専属の臨床工学技士の1日の流れを紹介します。

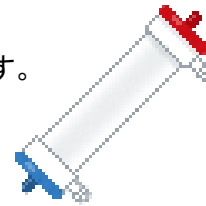


7:30～8:00 透析開始前の準備

透析液や透析装置の準備、プライミング(透析回路をくみため、人工腎臓を生理食塩水や透析液で満たすこと)を行います。

また、透析を作るための水処理装置や透析装置の始業前点検を行います。

透析液の組成に問題がないか浸透圧、電解質の確認も行います。



8:00～9:00 患者入室、透析の開始

患者さんの健康状態やシャントを観察し、穿刺、機器を操作して、透析を開始します。



10:00 申し送り

スタッフが集合し、患者さんの状態や必要事項を共有します

透析開始後、1時間おきに患者さんの状態、血圧、穿刺部の状態を確認します。透析装置については様々な圧に異常がないか、液漏れがないか、指示通り透析が行えているかを確認します。

11:00～12:00 お昼休憩

スタッフが交替で休憩をします。



12:00～13:00 透析の終了

透析終了の操作し、抜針、止血を行います。

12:00～13:00 午後透析開始

月・水・金曜日は午後からも透析があるので、午前と同様に準備し、透析を開始していきます。

16:00～17:00 業務終了

透析終了後に透析装置の洗浄、片付け、翌日の準備をして、業務は終了です。



その他に透析が終わった後には…?

透析装置や水処理装置の点検や部品交換を行い、安全な透析ができるよう努めています。



透析効率が上がるよう努めています★

透析患者さんは定期的に血液検査、心電図、レントゲン、超音波検査など様々な検査を行っています。

当院では、臨床工学技士がこれらの検査スケジュールの管理を行っており、さらに、透析効率の算出も毎月行っています。透析効率とは、今の条件で透析を行うことでどのくらい血液がきれいになるのかをみるための指標になる値です。

検査で得られた患者さんのデータをしっかり分析し、技士間で話し合い、より良い透析ができるように条件の見直しを医師に提案しています。

これにより、透析効率が上がっている患者さんが多数います。



エコーを使用した穿刺について★

透析センターでは、穿刺に伴う患者さんの苦痛の軽減のため、エコー装置を積極的に使用しています。エコーでしっかり皮下の血管の走行を見ながら穿刺を行うため、安全かつ確実です。穿刺困難者を中心に使用しており、患者さんからの評判も良いです。

また、スタッフのエコー技術向上のため、透析センター内で勉強会を開催しています。当院透析センターの臨床工学技士は全員このエコー下穿刺をすることができます。

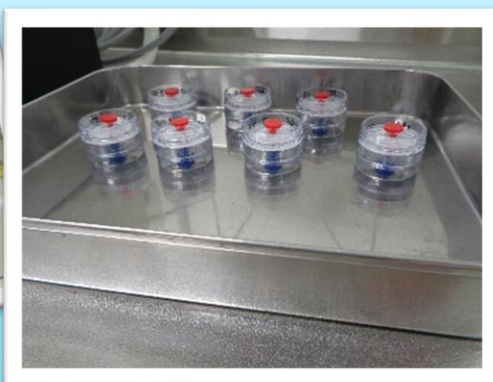
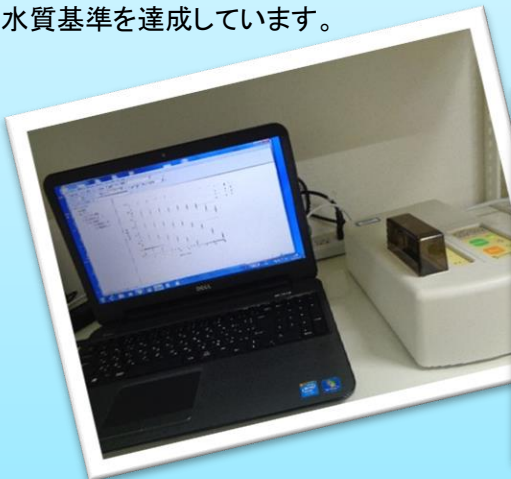


当院では透析液の浄化に力を入れています★

透析装置は毎日の次亜塩素酸、週2回の酢酸洗浄消毒を行っており、逆浸透膜濾過装置は極低濃度の薬剤の封入、洗浄を行っています。

透析液供給装置の原液ラインには ETRF(エンドトキシン捕捉フィルタ)を計4本、透析装置には全台2本ずつ搭載しています。

エンドトキシン検査、生菌検査は定期的に院内ですべて行っており、ガイドラインで推奨される水質基準を達成しています。



臨床工学技士は医療機器のスペシャリストです。

昨今の医療機器の高度化によって、
更に必要性が高まっています。

